

明治天皇小休所跡 明治15年5月、印旛郡野原野原方面において、近衛師団機動演習視察のため、天皇陛下は5月2日、千葉より山科を通り川井の石原家に到着した。その時の御小休所の模様は、御用係が先着し、長屋門の中から庭の周囲は緋地紫色の菊花御紋章を張り、御座敷は畳の上に絨毯を敷きつめる。幅物、其の他の装飾品等はすべて宮内省より持参したものを便った。石原家所有の物は、谷文晁筆の富士に三保の松原の掛け軸一幅だけであった。天皇陛下は30分間休憩されて御出立された。周囲は老杉、けやきなどの巨木がうっ蒼としていた。現在倶楽部「泉水」として会席料理屋として利用されている。

妙興寺 日蓮宗本山、長安山妙興寺は千葉市において最も古い日蓮宗の寺で、日蓮上人奉迎御入山後翌年、運治元年(1275)12月、安房国天津の領主、工藤吉隆の舎弟である日蓮の直弟子、日合上人を迎えてその祖とした。最初は現上人塚の東隣に堂宇を建立したが、三百年後の永禄12年(1569)里見兵乱のため兵火にあい、七堂伽藍ごとく焼失。その後天正元年(1573)再建。慶長元年(1596)には僧侶の教育機関として「野呂檀林」が開設され、まはみる大講堂を有していた。しかし寛文6年(1666)幕府は日講上人のとなえる不受不施理論を非とし、同上人を日向に流罪にした。しばらく寺運は衰退したが、その後檀林も勢力をもちがえしたが、天保5年(1834)の山火事で堂宇を失い檀林は閉講のやむなきに至った。而して其の後文久元年(1861)より慶応3年(1867)に亘る約7年の間に三たび本堂が建立されて今日に至っている。なお、山門は焼け残った倉庫の堂で、庫裡奥にあるしだれ桜は泉自然公園にあった寺跡地から移植したものである。

入反目遺跡 縄文中期に貝より弥生時代にかけての住居跡が、貝塚から貝の化石のほか、土器のかけう、黒曜石の銚(やじり) 魚や獣骨、石器など多数出土する。なお、このあたりは標高約60mあり、周辺で一番高い台地になっている。ノロという地名はアイヌ語で「高台のこと」という。野呂という地名の発祥地である。

現在は埋め立てられて無し

ダイダラボッチ

泉自然公園 千葉市の中心部から東南東約11キロメートル、東金街道(国道126号)の南側に位置する約40ヘクタールの風致公園で、大部分が東千葉近郊緑地特別保全地区に含まれており、豊かな自然が残されている。昭和28年泉両が千葉市に合併した際、地元から公園化の要望が出され、自然公園として整備していくことが決定されました。昭和42年3月、公園予定地を含む61.3ヘクタールは、首都圏近郊緑地保全法による「緑地保全地区」の指定がされ、この地域一帯の土地利用の基本的な形態が打ち出され、公園の性格づけがされました。昭和43年度より事業に着手し、昭和44年6月3日、草原、蕨、蒲田などの施設が完成し開園となった。上の池、中の池、島の池、下の池、蓮池、湿生植物園、野芝園、外菜樹の広場、果木の広場、もかじ谷、梅林、杉林、一本松広場、お花見広場、野鳥の森、紅葉園などがある。春は水仙、カタクリの花、一輪草や二輪草、山吹、ホトケの花、さくらなどは日本百選にえらばれた。あつぷじにさつぎと次つぎに咲き乱れ、6月は花菖蒲が盛り橋とマッチし、ながさは最高となる。池に映えた紅葉の秋、冬とも水鳥の鳴き声の渡り鳥が飛来し、バードウォッチング、写真家など絶好の楽園となる。

六社神社 大國主命を主祭神とし六柱の神様が祀られている。鎌倉時代の創建である。境内の第六天神社の三本杉に呪いの釘が打たれたあとが数多く残っている。
清水不動慈眼寺 妙興寺の下寺で、崖下の清水はむかし無菌であった。

川平土友 康正元年(1455)室町時代に、香取郡小見川城主、東常緑(はつねおれ)が、家来の侍大将東金城主、浜倉利に命じて造らせた東金みちである。旧東金街道の記念碑のあるあたりが、千葉みち、佐金みち、東金みちの道分けであった。むかし旅籠屋をやっていたお家が最近まであったが、移転した。徳川家康がたがかりにこの道を改良して造る予定があったが、急変が多すぎたため変更した。

第六神社 面足神を主祭神に、山根神、天照大御神、猿田彦命、誉田別命(心神天皇) 息長足媛命(神宮皇宮) 市杵島比売命(いつくしほのひめのみこと) 橘名田比売命、菅原道真、大山咋命(おほやけのみこと)の十宗神が祀られている。創建年代は不詳なれど、中興は慶長10年(1605)社殿再建と鳥居を建立した記録がある。おぼろの中の書付に現存している。拜殿内には立派な絵馬が数多く掲げられており、なかに想像上の獣で、頭は猿、体は虎、尾は蛇の「ぬえ」退治の絵馬がある。

